

2010 (2011年度改定版)

【事例集】神奈川の住宅団地・地域における居住支援の取り組み



制作・発行： [神奈川県居住支援協議会・団地再生部会]

【事例 1】大規模住宅団地における住民コミュニティーを背景とした居住支援《A》

《居住支援の概要・経緯》

ドリームハイツは神奈川県住宅供給公社、横浜市住宅供給公社が供給した大規模分譲集合住宅団地。1972 年の入居開始当初、保育所不足に悩む保護者らが自主運営による幼稚教室をスタートさせた（1975 年 4 月～）のをきっかけに、団地内で生じた問題を住民が主体的に解決していくこうとする機運と相互扶助の精神が醸成された。その後、団地住民の高齢化などを背景に自主的な居住支援の取り組みは広がりを見せ、現在は「高齢者・障害者支援」「子育て支援」「まちづくり推進」のジャンルで 15 団体が活動を展開するに至っている。

2007 年には、これらの活動団体と自治会が地域運営協議会を設置、横浜市の「身近な地域・元気づくりモデル事業（市民主体の地域運営）」に選ばれ、行政との協働により地域課題の解決に向けた取り組みがスタートした。見守りネット部会、ビジョン部会、広報部会を組織して活動を行う中、拠点となる「地域交流室」が 2009 年秋に深谷台小学校開設され、見守りネットセンターとしての機能整備も進められている。

また、2010 年 10 月より、深谷台アフタースクールも開室された。



団地の様子



居住環境の概要

◆ 位 置	JR 東海道線、横浜市営地下鉄・戸塚駅～バス 25 分
◆ 規 模 等	面積／約 16.4ha 分譲戸数／2,270 戸
◆ 人 口	2010 年／約 5,150 人 2007 年／約 5,600 人 1980 年／約 7,900 人 高齢化率／36.4%
◆ 入居開始	1972（昭和 47）年

《主な居住支援団体の活動》

【高齢者・障害者支援】

◆ ドリーム地域給食の会（1990 年設立）

高齢、病身、障害などで食事作りが困難な家庭を対象に配食サービスを実施。弁当の手渡しを通して、高齢者の独居世帯の安否確認にも貢献している。

◆ N P O 法人 ふれあいドリーム（1994 年設立）

家事や力仕事の手伝い、簡単な介護・介助、ベビーシッターなどのサービスを提供する、会員制の互助組織として誕生。1999 年に特定非営利活動法人の認定および訪問介護事業者の指定を受け、2000 年から訪問介護事業（ヘルパー派遣等）や居宅介護支援事業（相談やケープランの作成等）にも取り組んでいる。

◆ N P O 法人 いこいの家 夢みん（1996 年設立）

囲碁や体操、パソコン、絵画、フラワーアレンジメントといった介護予防プログラムを提供するとともに、交流サロンとしての機能も担う。2000 年に特定非営利活動法人の認定を受け、横浜市から介護予防型通所事業を受託（6 年間）した。また、看護師による血圧測定・健康相談などを行っている。

◆ N P O 法人 ふらっとステーション・ドリーム（2005 年設立）

上記 3 団体が中心となって設立したカフェタイプの交流拠点。団地に隣接する空き店舗を借り、ランチや喫茶メニューを提供するとともに、地域住民の手作り作品や物品の展示・販売コーナーを設けたり、医療・介護・健康づくり等の情報集約を行っている。地域で助けや人手を必要としている人と協力者をつなぐ「ボランティアバンク・えん（2008 年設立）」の事務所としても機能。

【子育て支援】

◆ すぎのこ会（1975 年設立）

3・4・5 歳児のお母さんと保育者が一緒に子育てをする手作り幼稚園。月に一回程度、未就園児親子から高齢者まで楽しめる交流イベントも開催している。

◆ つぼみの広場（1996 年設立）

障害のある子供たちの放課後・余暇活動支援、学校と自宅への送迎などに取り組む。

◆ おやこの広場 ぽっぽの家（2002 年設立）

親子が集い、遊んだり、楽しいプログラムに参加したり、企画を立てたりする場として、N P O 法人・子育てネットワークゆめが設立、運営に当たる。子供の一時預かりも行っている。

ドリームハイツ(横浜市戸塚区)



※ドリームハイツ地域運営協議会発行「わたしたちのまち・ドリームハイツエリアの団体」より抜粋

《地域交流室・見守りネットセンターの概要》

- 場所は団地に隣接する深谷台小学校のプレハブ空き教室を活用。月～金曜日の 9～15 時、担当者が常駐して健康や家族の心配事などの相談に応じているほか、見守り活動の一環で「安心カード」の製作にも携わっている。
- 「安心カード」は氏名、連絡先、病気の履歴、服用薬、かかりつけの医師、介護状況などを記録できるようにした書面。2010 年春から団地全戸に配布し、外出時などの携帯を呼びかけている。
- 2010 年夏からは、電力使用量の時間変化に着目した異常発見システムのモデル実験も始まった。

《ここがポイント！》

- ◎ 各団体が独自性を保って息の長い活動に取り組みつつ、緩やかな連携を図りあう中で問題意識や情報が共有され、住民ニーズ=「困った」に答える新たな取り組みが生み出されていく“広がりの方程式”が特筆される。
- ◎ 活動拠点となる施設の確保にも知恵と工夫が見られ、例えば「ドリーム地域給食の会」が調理に用いる厨房施設は、団地管理組合の承認を経て集会所に設けられた。また、「ふれあいドリーム」は団地居住者が転居した住戸を賃借、「いこいの家 夢みん」は空き住戸を購入して活動を行っている。



常時オープンの交流拠点として開設された
「ふらっとステーション・ドリーム」



住民が資金を出し合い空き住戸を購入して運営
されている「夢みん」

【事例 2】大規模住宅団地における住民コミュニティーを背景とした居住支援《B》

《居住支援の概要・経緯》

分譲・賃貸住宅合わせて 6600 世帯が暮らす県内屈指のマンモス団地では、10 の単位自治会で構成される若葉台連合自治会および 13 の管理組合による協議会が、早くから居住者の高齢化を見据え、地区内の建物入り口の段差解消や階段手すりの設置、住宅改善指針の作成といったハード面の環境改善に取り組んできた。

また、1987 年に設立された「若葉台地区社会福祉協議会」は連合自治会と連携を図りながら、ソフト面で福祉の街づくりをバックアップ。多世代交流や高齢者交流事業を展開するうちに住民も刺激され、さまざまなボランティア活動や居住支援の取り組みが活発化していった。

こうした流れの中で、連合自治会、管理組合、地区社会福祉協議会、老人クラブ、団地内商店街、行政、学校、住民活動団体および財団法人若葉台管理センター（団地の供給主体である神奈川県住宅供給公社が設立）といった各組織の有機的なつながりが形成され、ハード・ソフトの両面で住みよい団地づくりを推進する体制が確立されるに至った。

一方、21 世紀に入ると少子高齢化がいっそう顕著になり、大きなテーマとして浮かびあがつたのが、近隣小・中 5 校の再編問題。2007 年春に小学校 1 校・中学校 1 校へと再編されることが決定され、空き施設となる 3 校を壊さずに有効活用して地域の活性化に役立てるための取り組みが始まった。連合自治会、単位自治会を中心とした各住民団体で構成する検討委員会の働きかけにより、2010 年、都市計画の変更が認可され、旧若葉台西小においては学校法人国際学園星槎中学・高等学校が 2011 年 4 月に移転開校。旧若葉台東小においても横浜市立特別支援学校の 2013 年開校に向けた準備が進められている。残る旧若葉台西中については、文化・芸術・スポーツの市民活動拠点の整備を目指して暫定利用を継続中（北棟には地域作業所が 2012 年に開所予定）。

このほか 2007 年 6 月から 3 年間にわたって取り組んだ横浜市環境教育アクションプラン・パイロット事業や、横浜トリエンナーレ 2011 と連携したアートプロジェクトなど、団地を舞台に活発な文化活動が繰り広げられている。また、2008 年度、横浜市の「身近な地域・元気づくりモデル事業（市民主体の地域運営）」に選定された。



若葉台管理センター



若葉台地域ケアプラザ

居住環境の概要

◆ 位 置	JR 横浜線・十日市場駅～バス 13 分
◆ 規 模 等	面積／約 145ha 住宅棟数／約 74 棟
◆ 人 口	2011 年 3 月／約 15,900 人（約 6,600 世帯） 計画人口／25,000 人
◆ 入居開始	1979（昭和 54）年

《各団体の取り組み》

【連合自治会】

- 団地内の住民活動を把握し調整役を務めるとともに、行政など对外組織との折衝やまちづくりの中長期的なビジョンの検討を担う。
- 良好的なコミュニティーの形成を図るため、若葉台まつりの会や NPO 若葉台スポーツ・文化クラブらと連携協力して夏祭り、運動会、文化祭等のイベントを開催。
- コミュニティ新聞「みんなの若葉台」を毎月、発行。2012 年 3 月 1 日付で 317 号を数える。

【単位自治会】

- 新規の入居者への説明会や棟長の訪問により、自治会加入の促進および高齢者を把握。
- 高齢者等支えあい連絡会を組織し、安否確認、お茶のみサロンを実施。
- 安全・防犯パトロールを実施したり、資源ごみ回収、放置自転車やバイクの撤去。

【若葉台地区社会福祉協議会】

- 「孫子老（まごころ）の日」＝団地内や近隣の特別養護老人ホームの高齢者と、小中学生、その親世代の住民が一組の家族になって買い物や食事をして過ごす福祉体験の催し、「高齢者交流会」＝老人クラブなどのサークル活動発表の場などを長年にわたって開催。
- 近年は障害者（児）や子育て支援にも力を入れる。
- 2009 年には、若葉台の福祉課題を解決するために継続して安定的に事業を行う担い手として、「N P O 法人 若葉台」を設立した。

【若葉台管理組合協議会】

- 1989 年の発足以来、13 の管理組合理事長で構成する役員会を毎月開催し、共通する問題について協議。こうした問題の解決に向けて委員会が組織され、答申や提言を行い具体的な取り組みにつなげてきた。
- 近年は「マンションの長命化と再生」を最重要課題に据えて活動を展開。住民啓発のためのシンポジウムも行い、2009 年度（2009 年 6 月～2010 年 5 月）の開催で 5 回を数える。

【若葉台管理センター】

- 団地住戸の売買の仲介や賃貸の入居事務、リフォームなどの事業に加え、2010 年からは会員を募り、電球の交換や水漏れなどに対応する「生活支援サービス」を開始。また、ショッピングタウンわかばとの共同事業により、買い物支援のコミュニティバスの運行（土・日曜、祝日を除く 10 時～18 時）を 2011 年 3 月 14 日からスタートさせた。
- 横浜市の「若葉台地区センター」の指定管理者に選ばれ、2006 年度より地域の活性化を目指して運営にあたっている。

【住民組織の活動】

- **テクテクの会**: ハンディキャップのある子供や家族との交流、バザー、農園での野菜作りなどを実施。1995年設立
- **リハビリ教室イツワ会**: 脳血管疾患等で障害が残ったりした人たちを対象に体操や手工芸、手話を通じて、保健士の講義などを通してリハビリを総合的に支援している。1982年設立
- **のこのこの会 (NPO法人いっぽい・若葉台事業所)**: 歩行困難な高齢者や障害者の送迎、介助を実施。1997年設立
- **わかばだい布えほんグループ**: 障害のある子供たちが布絵本・布遊具を手作りし、地域のグループなどに貸し出している。1984年設立
- **グループ翔「拡大写本の会」**: 弱視者や高齢者のために拡大文字の写本を作成し、地区センターで閲覧・貸し出しを実施。1991年設立
- **ホームヘルプ若葉台**: 会員に対して家事支援や通院・外出の介助を提供。1990年設立
- **ボランティア企画「若葉と森と愛」**: 地域ケアプラザ等の配食サービスやデイケアサービスの手伝い。1987年設立
- **ケアサポート野の花**: 会員に対して家事支援や通院・外出の介助を提供。2000年設立



「若葉台中央」のバスロータリー



団地中央のショッピングタウンを起点に、4つのルートで遠方の住棟を巡回する「コミュニティバスわかば号」が、2011年3月より運行を開始



《ここがポイント！》

- ◎ 連合自治会の強力なリーダーシップとともに、若葉台団地ならではの連携組織として特筆されるのが管理組合協議会の存在。建物の維持管理にかかわる問題意識の共有により、住棟間に格差を生じさせることなく、団地全体として良好な住環境を継承していく上で重要な役割を果たしていると考えられる。
- ◎ 管理組合協議会の事務局を務めているのは、(財)若葉台管理センター。入居開始当初から設立され、不動産仲介や住宅リフォーム、共同施設の維持管理といった業務を通じて団地内のいろいろな情報に精通し、ハード面の問題も処理しやすい仕組みになっている点も見逃せない。

【事例3】大規模賃貸住宅団地の建て替えに合わせた福祉施設等の誘致

《居住支援の概要・経緯》

都市機構（UR）が1997年度～2009年度に行った旧南日吉団地建て替えプロジェクトにおける先進事例。URは建て替えによって創出された敷地の一部について、高齢者を支援するための施設や住宅の建設を要件にコンペを実施し、選定された事業者（株学研ココファンホールディングス）に土地を賃貸した。事業者はそこに入居一時金不要の高齢者専用賃貸住宅、デイサービス・ショートステイ施設、クリニック等からなる4階建ての「ココファン日吉」を整備し、2010年3月に開業を迎えた。

一方、URは横浜市との協議により、旧南日吉団地の敷地の一部を別の場所にある市営住宅の土地と交換、横浜市はそこに市営住宅3棟を新築した。このうち1棟には1階に公設・民営の地域ケアプラザを整備し、2007年9月にオープンした。また横浜市は、URが建設した住宅1棟も借り上げ、市営住宅として利用している。

さらにURから土地を借りて私立の認可保育所が2006年4月開園、URからの土地購入を経て民間事業者による分譲マンションも建設される（2011年3月完成予定）など、居住者はもちろん、近隣住民にとってもメリットの高いまちづくりが実現した。



UR・コンフォール南日吉
団地の様子



居住環境の概要

- ◆ 位 置 横浜市営地下鉄（グリーンライン）・日吉本町駅～徒歩8分
- ◆ 規 模 等 面積／約7.8ha

《コンフォール南日吉》＝UR賃貸住宅

建て替え後の戸数／909戸（建て替え前／1,336戸）

※上記とは別に、1棟（114戸）を横浜市が市営住宅として借り上げている。

《南日吉住宅》＝横浜市営住宅

91戸

《整備された居住支援関連施設》

【ココファン日吉】

敷地面積：約3,400m²
延べ床面積：約5,200m²
構造：RC造4階建て



施設概要

運営者

- 高齢者専用賃貸住宅
自立型：24戸 [2～4階]
介護型：24戸 [2～3階]
- 通所介護施設：デイサービス／25名 [1階]
- 短期入所生活介護施設：ショートステイ／21床 [1階]

（株）学研ココファン

クリニック [1階]

（医）山本記念会

調剤薬局 [1階]

（有）エイエス

学習塾 [1階]

（株）学研エデュケーション

コンフォール南日吉／南日吉住宅(横浜市港北区)

【横浜市日吉本町地域ケアプラザ（横浜市営南日吉住宅 A号棟1階）】

敷地面積：約 12,700 m² 延べ床面積（地域ケアプラザ部分）：約 1,060 m²

構造：RC 造 4 階建て

運営者：（社福）緑峰会

事業内容：

- 通所介護・介護予防通所介護（デイサービス／35名）
- 居宅介護支援
- 地域活動・交流事業等に対する場の提供、イベントの開催
- 福祉・保健に関する相談窓口（地域包括支援センター）



【横浜りとるぱんぱく（横浜市認可保育所）】

敷地面積：1559.33 m² 施設面積：755.49 m²

運営者：（社福）清香会

保育定数：90 名

※隣接して、横浜市立南日吉保育園（既設、保育定数 60 名）もある



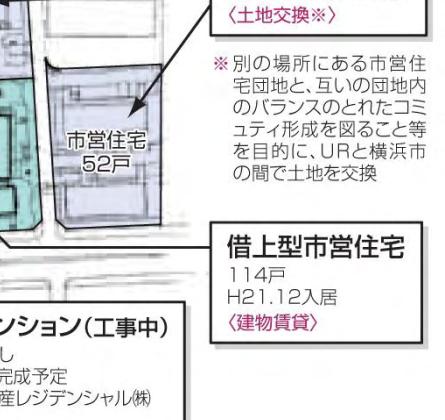
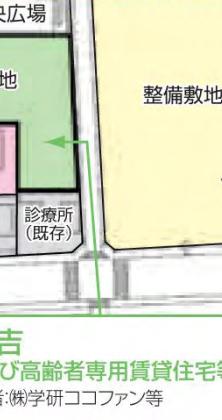
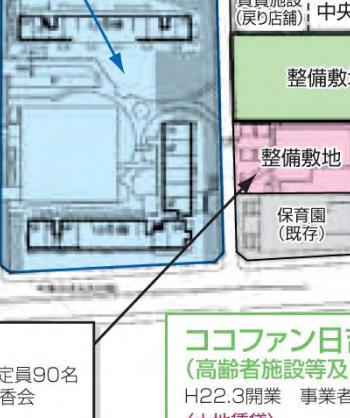
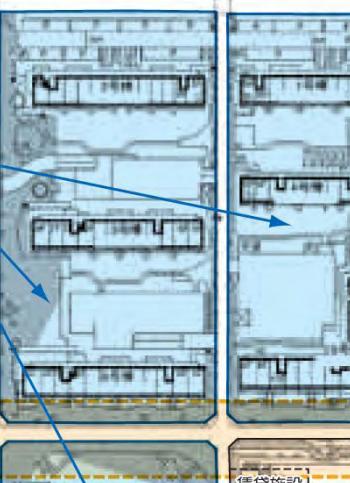
南日吉団地の建替事業の概要

至 日吉本町駅↑

**UR賃貸住宅
909戸**

**賃貸施設
(戻り店舗)
中央広場**

**保育園
H18.4開園、定員90名
事業者：（社福）清香会
(土地賃貸)**



**地域ケアプラザ（地域包括支援センター等）
H19.9開設
指定管理者：（社福）緑峰会**

**市営住宅 91戸
うち39戸 H19.8入居
うち52戸 H20.8入居
(土地交換※)**

※別の場所にある市営住宅団地と、互いの団地内のバランスのとれたコミュニティ形成を図ること等を目的に、URと横浜市の間で土地を交換

**借上型市営住宅
114戸
H21.12入居
(建物賃貸)**

沿道型の防災広場
・公開空地
・かまどベンチ
・ソーラー街灯
・災害時トイレ用マンホール

**ココファン日吉
(高齢者施設等及び高齢者専用賃貸住宅等)
H22.3開業 事業者：（株）学研ココファン等
(土地賃貸)**

**民間分譲マンション（工事中）
H21.3土地引渡し
188戸、H23.3完成予定
事業者：三井不動産レジデンシャル（株）
(土地譲渡)**

※広報誌「UR Press」25号より抜粋

《ここがポイント！》

◎ 大規模賃貸住宅団地の建て替えは入居者との折衝など多大な困難を要し、長年かけて醸成された住民コミュニティーを壊さざるを得ないという複雑な問題もはらんでいるが、時代のニーズに即したまちを一から創り上げることができるのが最大の特徴といえる。

コンフォール南日吉と横浜市営住宅に挟まれたエリアに建設され、竣工間近の民間分譲マンション

【事例 4】団地管理者と NPO の連携による見守りの取り組み

《居住支援の概要・経緯》

1964（昭和 39）年に入居が始まった都市機構（UR）の公田町団地は、最寄駅から徒歩 20 分以上あり、かつ陵地を開発して建設された団地のため、高低差が約 50m ある。かつて団地内にスーパーがあったが、少子高齢化に伴う世帯構成人員の減少を受けて撤退、その後に開業したコンビニも撤退してしまったため、一人暮らしや足腰の弱った高齢者にとって日常の買い物が大きな負担になるとともに、だれにも看取られない孤独死の問題もクローズアップされていった。

そうした状況に対応すべく、2008 年 6 月、栄区役所と団地自治会が協働して「お互いさまねっと公田町団地」を発足させ、孤独死の予防を目的に見守りネットワークづくりを進めつつ、「あおぞら市」という買い物支援の取り組みなどを行ってきた（2008 年度、横浜市「地域の見守りネットワーク構築支援事業」「身近な地域・元気づくりモデル事業(市民主体の地域運営)」に指定）。2009 年 9 月には NPO 法人として認証を受け、継続して活動を行っていく体制が確立された。

一方、横浜市の関係部局と団地の管理者である UR は 2009 年 2 月、「栄区公田町団地安心住空間創出協議会」を立ち上げ、団地内の空き店舗を活用して、地域交流の推進を図るための拠点づくりを協議。2010 年 4 月には「お互いさまねっと いこい」がオープンし、横浜市より「一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業（厚生労働省の安心生活創造事業に基づく）」を委託された先の NPO 法人が中心となって、運営を担っていくこととなった。

さらに UR では、区役所や NPO 法人との協力関係をベースに、国が平成 2009 年度に実施した「高齢者居住安定化モデル事業」の採択を受け、団地住戸の一部（80 戸）に複数のセンサーを設置。センサーで検知された安否情報を「いこい」に設けられた安心センター（管理サーバー）に集約することで、異常があれば NPO 会員または民生委員が電話や訪問して確認を行う見守りシステムの実験運用が、2010 年 12 月よりスタートしている。



高低差が大きい団地の様子

居住環境の概要

◆ 位 置	JR 大船駅～バス 15 分
◆ 規 模 等	棟数／33 棟 戸数／1,160 戸
◆ 人 口	2,055 人（1,100 世帯）
◆ 高齢化率	2009 年 9 月／27.5% 高齢一人暮らし世帯／183 世帯（16.7%）
◆ 入居開始	1964（昭和 39）年

《「お互いさまねっと いこい」施設概要》

構造：RC 造（一部鉄骨造）1 階建て
延べ床面積：216.48 m²
開館時間：10 時～17 時
休館日：木曜



外観および内部の様子。
スペースの大テール、右下
左下は交流
スペース

《NPO法人の取り組み》

【安心センター（見守り拠点）の運営】

- 木・日曜を除く開館日に社会福祉士1名が常駐して相談に応じたり、必要があれば各戸に訪問。桂台地域ケアプラザや栄区役所と連携できる体制が整えられている。
- NPOのメンバーは33の住棟ごとに担当者（見守り支援員）を割り振り、ポストや室内灯、ベランダの洗濯物の状況などに目を配りつつ、民生委員と連携して恒常に見守り活動を展開。また、URが設置した人感センサーによる情報を、朝晩2回確認している。

【買い物支援】

- 「あおぞら市」は毎週火曜日10時半～13時半ごろまで実施。惣菜・弁当や、生鮮食料品を仕入れて小分けするなどして販売を続けてきたところ品目も増え、交流拠点「いこい」がオープンしてからは日用品や産直米などの常時販売スペースが設けられた。現在は希望者への配達サービスや郵パックの取り扱いも行っている。
- 「あおぞら市」は団地住民の外出を促し、見守りや交流にも役立つことが分かり、開始してから1日も休むことなく開かれている。

【ミニ食堂】

- 毎週月・水・金・土曜日は、1食300～400円程度のランチを出している。
- 「あおぞら市」を開く火曜日は朝7時からモーニングサービスを実施。
- お茶やコーヒーも常備（1杯100円）され、開館時間内は自由に訪れてくつろぐことができる。

【多目的フロアの企画】

- 毎週水曜日の午前はヨガ教室、毎月最終金曜日は乳幼児と保護者を対象とした交流イベントを実施。
- 不定期でコンサートを催したり、地域住民の希望があれば貸し出しにも応じている。

《ここがポイント！》

- 公田町団地では現実に孤独死が相次ぎ、深刻な事態に陥っていたため、NPOによる見守りの取り組みをバックアップする行政やURの対応にも、手厚い援助を施していく姿勢が見てとれる。
- NPOが実施するさまざまな取り組みの中で、特にアイデアが注目されるのは「あおぞら市」。自立歩行がつらそうな高齢の女性が一生懸命、杖について訪れ、「少しでも外に出て歩かないとね」と漏らしていたが、商品を手にとって見比べながら品定めをすることは買い物の大きな楽しみであり、外出するのがおっくうになりがちな高齢者に意欲をもたらす上で、とても有効な手立てとなっているようを感じられた。



「あおぞら市」の様子



【事例 5】広域エリアにおける支えあいのネットワークづくりの取り組み

《居住支援の概要・経緯》

中学校区程度のエリアにおける地域ケアシステムの構築や展開を目的として、横浜市が2000年度にスタートさせた「地域支えあい連絡会（現在は、地域支えあいネットワーク）」の設立にいち早く名乗りを上げたのが栄区の南に位置する本郷中央、上郷西地区の住民。桂台地域ケアプラザを事務局として自治会、地区社会福祉協議会、民生委員、保健活動推進員、友愛活動推進員、ボランティアグループが構成員となり、地域における福祉の課題やテーマを整理して5つの分科会（地域福祉関係者分科会・ボランティアグループ分科会・子育て支援分科会・地域づくりの会・広報分科会）を立ち上げた。

これら分科会活動を続けるうちにさらに問題点が整理され、①気軽に立ち寄れる高齢者サロンの開設②子育ての孤立化を防ぐ交流の場の提供③災害弱者の把握や支援対策（2004年の台風被害がきっかけ）一に重点的に取り組むことになった。この中でも特に特筆されるのが高齢者サロン開設の取り組みで、2010年8月現在で17カ所のサロンがオープン。最近では高齢者のみならず、地域で暮らすだれもが集まる場所を求める要望が高まり、若い世代も巻き込んだ交流の場として活用していこうとする動きも出てきているという。

2005年9月からは地域特性に即した取り組みを掘り下げて行っていくために、支えあい連絡会を本郷中央地区と上郷西地区に分割して運営することになり、上郷西地区における住民交流やコミュニティづくりの活動の受け皿となるべく、野七里地域ケアプラザが2009年4月に開所している。また、本郷中央地区にある「湘南桂台」のエリアについては、自治会・シニアクラブ・子供会・福祉活動グループの連携による取り組みが、2008年度の横浜市の「身近な地域・元気づくりモデル事業（市民主体の地域運営）」に指定された。



栄区本郷中央地区、上郷西地区の
景観いろいろ



居住環境の概要

◆ 位 置	JR 京浜東北根岸線・港南台駅、本郷台駅～バス約15分
◆ 人 口	2009年3月末／本郷中央地区・約23,350人（10,355世帯） 上郷西地区・約7,520人（3,082世帯）
◆ 年少人口（0～14歳）比率	2009年3月末／本郷中央地区・11.3% 上郷西地区・9.8%
◆ 高齢化率	2009年3月末／本郷中央地区・27.4% 上郷西地区・35.2%

《開設された地域サロンの概要》

【本郷中央地区支えあい連絡会のエリア】

- おしゃべりサロン：毎月第3月曜10時～正午、桂公田町会館で実施。
- 朝日平和台「茶話会」：毎月第1月曜、朝日平和台自治会館で実施。
- 桂台西サロン：毎月第2金曜10時～正午、桂台自治会館で実施。
- 世代間交流サロン「すまいる」：毎月第2水曜（プチ講座）、第4水曜（ワークショップ）15時～17時、桂町のコーポ野村湘南本郷台集会室で実施。
- サロン「ぶらっとオアシス」：毎月第1木曜14時～16時、桂台地域ケアプラザ2Fホールで実施。
- おやこ異世代交流「元気Cafe」：毎月第3火曜10時～14時、桂台自治会館で実施。

【上郷西地区支えあいネットワークのエリア】

- 出会いサロン：毎月第1金曜14時～17時、上之町の喫茶店「エプロン・のぎ」で実施。
- 子育てサロン「さくらんぼ」：毎月第3金曜10時～15時、尾月自治会館で実施。
- ゆずりはの会：毎月第3木曜10時～正午、上郷町の港南台コートハウス集会室で実施。
- ママとも広場「アロハ！」：毎月第1水曜10時～正午（1、4、8月と祝日は休み）、上郷小学校会議室で実施。
- おしゃべりサロン・西ヶ谷団地：毎月第4水曜10時～正午、上郷西ヶ谷団地集会所で実施。
- サロンかめい：毎月第4木曜13時半～15時半、亀井町自治会館で実施。
- あおば：毎月第1金曜10時～正午、尾月自治会館で実施。
- しゃべり場とまと：毎週金曜10時～15時、上之町町内会館で実施。
- ハイツ集い処：毎月第3土曜（8月は第4土曜日）10時～正午、野七里の上郷西ヶ谷ハイツ集会所で実施。
- たまり場：毎月最終土曜10時～15時、上郷町のNPO法人たすけあい栄の事務所で実施。
- サロン・かみの：毎月第4火曜午後1時半～15時半、上之町町内会館で実施

横浜市栄区本郷中央・上郷西地区

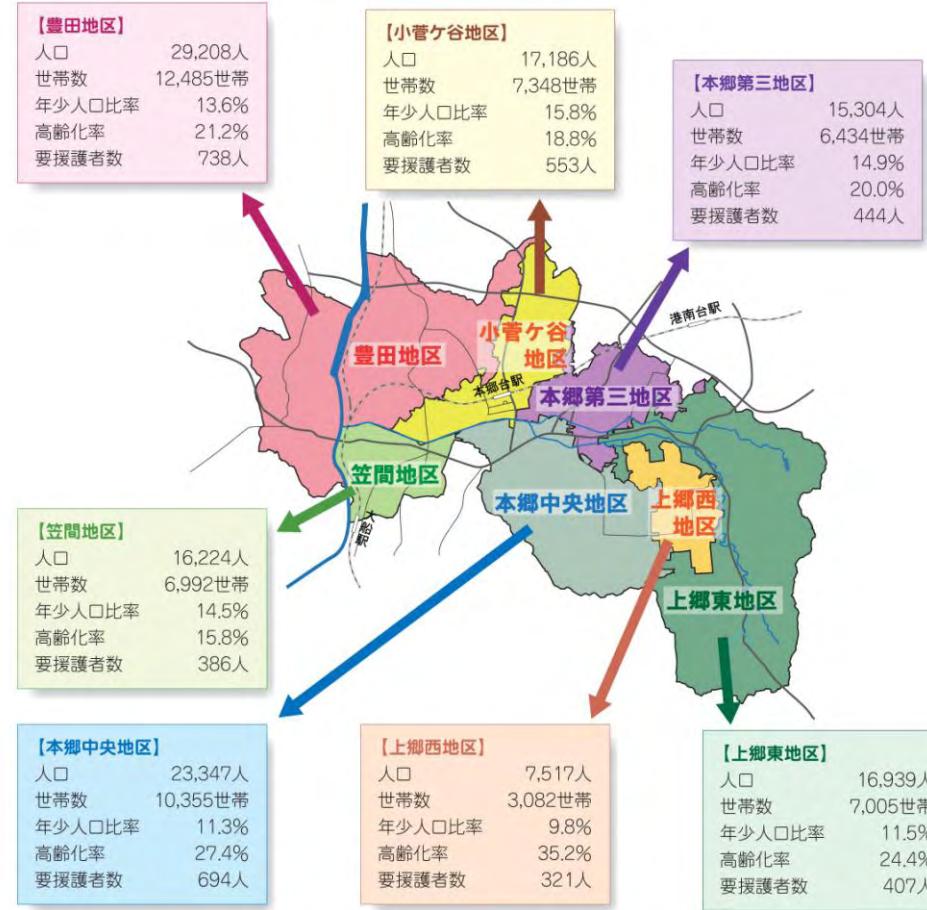


横浜市桂台地域ケアプラザ

《エリア内で活動する団体の概要》

- いこい：福祉クラブの組合員を対象に家事援助・介護サービスを展開。介護保険による利用にも応じている。
- グループ桂台：会員制で乳幼児の保育、高齢者、障害者宅での食事作り、清掃、買い物、病院付き添い、ペットの世話など生活支援のサービスを提供。
- たすけあい栄：平日の9時～17時、ヘルパー派遣による生活援助サービス、介護保険事業に取り組む。会員制。毎月最終土曜日は交流サロン「たまり場」を運営。
- たんぽぽ：第1・第3水曜日のデイサービス「ピエロの日（主に中途障害者を対象としたデイサービス）」や交流サロン「しゃべり場とまと」の運営のほか、栄区内の福祉施設、障害者団体、他のボランティアグループの取り組みを幅広くサポートしている。
- ひだまり三火：毎月第3火曜10時～14時、桂台地域ケアプラザにてミニデイサービスを実施している。
- 公田山百合会：本郷中央地区の障害者手帳を持つ人や70歳以上の独居高齢者を対象に、毎月第1月曜13時半～16時、公田ハイツ集会所にてミニデイサービスを実施している。
- 三水会：本郷中央地区在住で70歳以上の一人暮らしの人を対象に、毎月第3水曜、本郷地区センターにて食事会や誕生日などを実施している。
- 五月会：毎月第1水曜に、桂台地域ケアプラザにて食事会を開催。希望する高齢者は、ボランティアメンバーと一緒に食事作りもできる。
- どんぐり：上郷西地区の高齢者を対象に、第2・第4水曜10時～14時半、上郷小学校にて子供たちと交流しながらミニデイサービスを実施。
- みどり会：上郷西地区・上郷東地区的住民を対象に、毎月第4月曜13時半～15時半、野七里地域ケアプラザにてミニデイサービスを実施している。
- グループ「ゆう」：本郷中央地区的住民に対して、毎週木曜日に昼食（弁当）を配達している。
- 配食コスモス：毎月第1・2週の火・金曜、第3・4・5週の月・金曜日に昼食（弁当）の配達を行っている。
- さくら会：桂山クラブ（湘南桂台自治会のシニアクラブ）のサークル活動として発足し、55歳以上のクラブ会員を対象に月1回、料理実習・食事会を開いている。

横浜市栄区における地区の人口、世帯数、高齢化率等



※2000年3月、横浜市栄区福祉保健課・社会福祉法人横浜市栄区社会福祉協議会発行「第2期 栄区地域福祉保健計画」より抜粋。数値は人口・世帯数・年少人口比率・高齢化率が2009年3月末現在、要介護支援者数が2009年9月現在

《ここがポイント！》

- 横浜市が推進した「支えあい連絡会」は、会議の形をつくることが先行してしまったりしてうまく機能しなかった組織もあったようだが（それで各区の地域の実情や特性に合わせ、柔軟なネットワークづくりを進めるため「支えあいネットワーク」として改変された経緯がある）、このエリアにおける連絡会は課題の整理や活動テーマが分かりやすく、住民主体のさまざまな取り組みを広範囲にわたって根付かせることができた成功例と言つていい。
- 支えあい連絡会・ネットワークの事務局である桂台地域ケアプラザの運営者は、この地区20年以上にわたって知的障害者施設を営む社会福祉法人「訪問の家」。そのような経緯から、昔から障害者、高齢者に対して理解のある住民が多くいたことに加え、知的障害者施設の活動で培ってきた職員と地域住民とのコミュニケーション力がベースとなり、支えあい連絡会の連携も深められたと考えられる。

【事例 6】戸建て住宅地におけるコミュニティー再生の取り組み

《居住支援の概要・経緯》

開発されて 30 年以上が経過し、少子高齢化が進行する戸建て住宅地が 2007 年 8 月、横浜市栄区の自主事業である「地域の元気づくり事業」のモデル地域第 1 号に選ばれ、住民と区の協働によるまちづくりがスタート。実行委員会を 10 月に立ち上げ、地域課題を明確にするとともに、解決の方向性などが検討された。

2008 年度からは、具体的な取り組みとして「あいさつ運動」や町内公園の花壇づくりに着手した。また、空き家となった 2 丁目の一軒家を無償で借り受け、元気づくり事業の最大のテーマであった交流拠点の開設が 10 月に実現。子育て、多世代交流などの集まりを定期的に開催し、住民への浸透が図られた。

2009 年度には高齢者世帯の支援活動や、庄戸のまちの将来像を検討するグループなども誕生。区のモデル事業は 2010 年 3 月で終了したが、実行委員会は存続し、その後も地に足のついた取り組みを繰り広げている。

《元気づくりの主な取り組み》

【交流サロン 庄戸】

- すくすく（子育て支援）：毎週水曜日 10 時～16 時に開催。遊び場（部屋と庭）の提供や絵本読み聞かせのほか、イベント・講座に合わせてランチを出したり、手作りパンの販売日を設けたりして親子の参加を募っている。参加費は 1 家族 100 円、毎回 10～13 組が集まるという。
- 花水木（多世代交流）：毎週金曜日 10 時～16 時に開催。ゲームやレクリエーション、演奏会、創作活動など多彩な催しを企画するとともに、ランチの提供や野菜・手作りクッキーの販売などを通じて幅広い参加を呼びかけている。参加費は 1 人 100 円。毎回 12、3 人、多いときで 20 人程度が訪れる。

※毎週月・火・木・土・日曜日 10 時～20 時は一般に開放。毎月第 4 火曜日には、町ぐるみ健康づくりの会・ニコニコクラブ庄戸（会員制）の定例会が行われ、健康生活に役立つ講座なども催されている。

【くらしの応援隊】

2009 年 4 月から活動スタート。地域の高齢者世帯を対象に、庭の草取り、電球の取り換え、火災警報器・耐震器具の取り付け、網戸の張り替えなどを出張して行っている。運営資金に当てるため、作業代として 1,000 円を徴収。

【庄戸のまちの将来計画検討委員会】

10 年、20 年後の住みよい元気なまちづくりを見据え、ゲストを招いて話を聞いたり、意見交換の場を提供。

2009 年度テーマ：「庄戸を知り、まちの未来を探る」。2010 年 3 月に 2 回の講座を開催。

居住環境の概要

◆ 位 置 JR 港南台、大船駅、京浜急行・金沢八景駅よりバス

◆ 人 口 2011 年 1 月／約 4,570 人 (1,470 世帯)

◆ 開発時期 1971 (昭和 46) ~1975 (昭和 50) 年

◆ 高齢化の状況

2008 年 9 月／65 歳以上人口割合が区平均 (21.7%) 以上、
0~14 歳の人口が 10% 以下

【地域との連携事業】

地域コミュニティーを守り存続させていくためには、将来のまちづくりを担う子供たちの育成が重要であるという位置づけから、以下のような取り組みを行っている。

- あいさつ運動：冬季から春先にかけて庄戸小・中学校の校門等に立ち、登校生や通勤・散歩をする住民たちとあいさつを交わす。2008 年度のスタート時には子供たちが製作した啓発ポスターの投票が行われ、選ばれた優秀作はパネルにして町内の目立つ場所に掲示されている。
- 学びの学援隊事業：大人たちの貴重な体験や社会人として得た知識などを子供たちに受け継いでいくための教育ボランティア活動。元気づくり実行委員会と学校長の連名による呼びかけに応じて、約 40 人の住民が協力を申し出た。
- 学習発表会：庄戸小の子供たちが授業の一環で交流サロンに赴き、地域の人たちを前に学習成果を披露する催しで年に 2 回ぐらい開催。あいさつ運動や学援隊の取り組みによって学校との協力関係が深まり、実現した。
- 地域の人と遊ぼう：放課後キッズクラブに呼びかけ、年 2 回程度、地域住民との交流会を行っている。内容は昔遊び、流しソーメン、餅つき、宝探しなど。



町内の目立つ位置に掲示された
「あいさつ運動」のパネル



横浜市栄区・庄戸1丁目～5丁目地域

月1回欠かさず発行されている「庄戸の元気づくりニュース」

表面

「庄戸の元気づくり」ニュース

平成23年3月号(第34号) 発行元 庄戸の元気づくり実行委員会事務局 発行日 平成23年2月24日 ホームページ GoogleかYahooで「庄戸の元気づくり」と検索

アンケートのお願い

日頃は「庄戸の元気づくり」の活動にご理解とご協力をいただきまして有難うございます。「庄戸の元気づくり」が発足しましたから早や4年がとうとうしています。そこで、今後より良い活動のため住民の皆様のご意見をお聞きし参考にさせていただきたいと思います。この度、その為のアンケートを実施することになりました。
お手数をおかけしますが、ニュース3月号と同時に配布のアンケート用紙をご質の上何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

*回収締め切り…3月10日(木)
*回収方法…各町会「元気づくり」実行委員宅のポストへ投函してください。

地域のビッグイベント!! 多世代交流イベントのおしらせ

昨日、地域のコミュニケーションを目的に「元気づくり」が初の試みで開催し大好評だった多世代交流イベントを今年も開催いたします。皆様!お楽しみに!!

*日時：平成23年5月14日(土)(雨天の場合は15日に順延)
*場所：庄戸3丁目南公園(パンダ公園)

不用品の交換会、お楽しみ福引、ゲームなどを行います。
豚汁が出ます。和太鼓の昇龍が来ます

寄付のお願い 「庄戸の元気づくり」は地域の交流を目指し今年も出店します。ご家庭に不要な品物がありましたらご寄付を宜しくお願ひいたします。品物の受付は毎週金曜日「交流サロン・庄戸」であります。どうぞ、ご協力を宜しくお願ひいたします。

資源回収のお知らせ

4月から「元気づくり」の新たな活動として資源回収を実施します。毎週日曜日ご自宅の門の前にお出し下さい。業者が回収いたします。詳細につきましては次号ニュースでお知らせします。

くらしの応援隊 ■こんなことで困っていませんか?

★主に高齢の方を対象に「くらしの応援グループ」がお手伝いします
◎庭の草取り ◎電球の取替え ◎火災警報器の取り付け
◎網戸の張替 ◎耐震器具の取り付けなど。
◎その他ご相談下さい。

■火災警報機の取り付けはもうお済みですか?
*火災警報器は平成23年5月31日までの設置を義務付けられています。
*設置場所は「寝室」「階段・棧道が2階以上にある場合」「台所」です。
*機器は「家電量販店」「ホームセンター」などで販売しています。
(NSマーク付いた製品と熱式があります。)
(機器の種類は熱式と熱式があります。)
(音声付もあります)

■「くらし応援グループ」でも取り付けをいたします。ご希望の方はご連絡ください。
連絡・お問い合わせは 芦川まで TEL 893-4902

学びの学援隊 りんごの皮むきをしよう

2月15日(火)16日(水) 庄戸小学校5年生の家庭科、調理実習「りんごの皮むきをしよう」に地域の方々と「元気づくり」実行委員が延べ12名お手伝いをしました。りんごの皮を薄くむき、それを取った後りんごを薄切りにしてコンポートを作りました。子供達の包丁さばきは、男女を問わずなかなかのもので、ご家庭でお手伝いをしている様子が伺えました。皆でいただいたコンポートはとても美味しいかったです。ごちそうさまでした。

★実行委員の仲間になりませんか?

*ソボーターさんも募集中です
お詫びと訂正
ニュース2月号で紹介しました新実行委員【2丁目 岩澤 孝】さんのお名前が【岩澤 修】さんとなっていました。お詫びと訂正いたします。

申し込み・お問い合わせは委員長
芦川まで TEL893-4902

裏面

交流サロン 庄戸

庄戸2-7-21 【庄戸1丁目バス停より徒歩3分】
TEL:894-3764 (水、金のみ)
サロンに関するお問い合わせは 杉谷まで TEL:892-7182

サロンをどうぞ、お気軽に
また有効にご利用下さい

①サロンの一般利用
★夜間のご利用も可能です
★1回限りでも、又長期の定期的なご利用でも結構です。
☆毎週月、火、木、土、日曜日 10:00~20:00
*和室(1階・2階)、洋間、台所をご利用ください
*利用時間と料金(1人に付き)
①10:00~13:00…100円
②13:00~16:00…100円
③16:00~20:00…100円
★利用不可日:毎週水曜日、金曜日
★申し込み受付曜日、時間:毎週水曜日、金曜日 10:00~16:00
★申し込み先:「交流サロン・庄戸」TEL:894-3764
利用された方の感想
男性 グループ
白所を使い、腰痛のきっかけで和室で温かいおでんを頂きました。 寝室仲間(三人会)メンバーで新しい年の1月水曜から12月復興・イルミネーションまでの撮影計画を立てました。今回が3回目の利用です。何時もスタッフの誠意ある対応で気持ちよく利用しています。次回もよろしくお願いいたします。

◎「健康作りの会 ニコニコクラブ庄戸」(会員制)
★3月の予定 「3月10日(木)・湯河原、幕山林公園散策」「3月22日(火)・家庭で出来る菜園づくり」
☆会へのお問い合わせは坂本まで 893-0753

ご案内

3月の催し物のスケジュール

☆3月2日 おひなまつり(音楽付きかみしばい)
☆3月9日 お部屋お庭遊び
☆3月16日 絵本読み聞かせ
☆3月23日 お部屋お庭遊び
☆3月30日 お部屋お庭遊び

ランチメニュー

☆3月2日 おひなまつりメニュー
ちらし寿司
お吸い物
デザート

☆3月9日 保健士さんによる小児口腔ケア講座
歯型の模型を使って保健士さんが歯のケアについてわかりやすく講義をしてくださいました。子供達は歯の模型に興味津々でした。

☆3月11日 レクリエーション
書がちらづけい日でしたがプロのレクリエーターの指導のもと、楽しい催しで部屋の中はワイワイと騒やかな歌声が上がり熱気に包まれました。夢中になってゲームに興じたひと時でした。

2月の催し物のスケジュール

☆2月9日 保健士さんによる小児口腔ケア講座
歯型の模型を使って保健士さんが歯のケアについてわかりやすく講義をしてくださいました。子供達は歯の模型に興味津々でした。

《「交流サロン 庄戸」施設概要》

構造:木造2階建て

利用スペース:1階和室(ふた間続きの14畳+広縁)、2階和室(8畳)、1階洋室、台所

運営経費:光熱費が年間30~40万円、固定資産税・火災保険料などの実費(月2万円程度)を所有者に納入



外観(上)とふた間続きの
1階和室(右)

《ここがポイント!》

- ◎ 元気づくり実行委員会は現在30人弱、活動に応じて支援の手を差し伸べるソボーターが約30人。町内会等に依存せず独立して運営され、自由かつ柔軟な発想で活動できるメリットがある半面、資金や人員の面でやれることは限られる。発足以来、肩肘張らずにできることから始めようというスタンスが貫かれ、「このまちに住み続けたいと思っていただけるような存在になることが、私たちの活動の目指すところ」とは、実行委員長の芦川弘さん。
- ◎ 活動の推移に目をやると、あいさつ運動や学援隊の取り組みなどを通じて地域の小・中学校との良好な関係が育まれ、世代間交流を活性化させる事業が高い割合を占めようになってきているように見受けられる。
- ◎ 交流サロンとして町内の一軒家を無償で借りることができたのは、その家主に対し、元気づくり実行委員長をはじめとする近隣住民の温かい気遣いがあったからこそ。空き家になると聞いて地域のために借用を願い出たところ、親族は快諾してくれたという。

【事例 7】戸建て住宅地の住民が建設、運営にあたる小規模多機能施設

《居住支援の概要・経緯》

伊勢原市と厚木市にまたがる「通称・愛甲原住宅」は、昭和 40 年代に国家公務員向けに分譲された閑静な戸建て住宅街。ここで 1986 年に主婦仲間で始めた高齢者のための家事援助サービスがきっかけとなり、地域の人々の絆を強め、大きな実を結んだ。

通院のための送迎や買い物の付き添い、食事づくりなどの取り組みを進める中で問題意識が高められ、住民に呼びかけてまちづくりの勉強会などを 20 年近く積み重ね、2003 年、住宅地中央のバスロータリーに面した空き店舗を活用して、通所介護サービス「デイ愛甲原」をオープンさせた。さらに 2 年後、泊まりのサービスを求める利用者らの要望を受け、小規模多機能施設を開設するための準備会が立ち上げられ、NPO 法人「一期一会」として認証を取得した。

この話を聞いて、家事援助サービスやデイケア施設を利用し、かねてより主婦たちの取り組みに賛同の意を寄せていた一人暮らしの住民女性（故津崎能子さん）が、自宅の土地の寄託を申し出た。こうして 2006 年 4 月、高台にある東南の角地に完成したのが「風の丘」。1 階は小規模多機能型居宅介護サービスを提供するスペース、2 階はケア付ハウス（住宅型有料老人ホーム）になっているほか、1 階厨房を用いて地域住民へ夕食を出したり弁当を届ける配食サービスも手がける。2009 年には隣接地を購入して、ケア付ハウスの増築が行われた。

これらの整備費用は、デイケア施設も含め地域住民に出資を募って調達したもの。「困ったときはお互いさま」の精神に根差した、住民力の高さをうかがわせる成功事例といえる。



居住環境の概要

- ◆ 位 置 小田急線・愛甲石田駅～バス 5 分
- ◆ 規 模 等 伊勢原市高森台／600 戸 厚木市愛甲／300 戸
- ◆ 高齢化率 2010 年／32.7% (伊勢原市高森台)
- ◆ 分譲開始 1965 (昭和 40) 年



「風の丘」外観（上）と、玄関前に建立された記念碑（右）。「この地で信頼できる人たちと暮らし続けたい」という土地提供者のメッセージが刻まれている



住宅地中央のロータリーに面し、「デイ愛甲原」が入居するショッピングセンター

《NPO法人の事業》

【風の丘】

- ケア付ハウス（住宅型有料老人ホーム）：部屋数 14。利用料は入居金 500 万円に加え、家賃 4~5 万円、管理費 6 万円、食費 6 万円、水道・光熱費 1 万 2 千円など月額約 20 万円を支払う。
- 小規模多機能型居宅介護（介護保険事業）：デイサービス（9 時半～16 時）に通いながら泊まり・訪問介護を実施。
- 居宅介護支援事業所（介護保険事業）：ケアマネジャーによる相談、プラン提案（月～金曜 8 時半～17 時）。
- 町の台所：弁当の宅配サービス（900 円、配達料込み）を月～土曜（年末年始を除く）に行うほか、「風の丘レストラン」で 365 日、夕食（800 円）を提供。
- そよ風サービス：在宅者の家事援助や身体介護、外出支援、および風の丘での緊急ショートステイ、入浴など、介護保険を使わない生活支援への要望にきめ細かく対応している。

【デイ愛甲原】

通所介護事業を月・火・木・金・土曜に実施（2011 年 6 月からは水曜日も開所予定）。利用定員は 15 人。



「風の丘」2階のケア付ハウスの共用スペース（右）と、2009年に増築された部分（下）



「風の丘」でのデイサービス風景。体力づくりのプログラムに取り組む皆さん

《ここがポイント！》

- ◎ 善意のサービス提供に始まり、地域住民が必要とする介護施設を地域住民の手で作り上げていったところが、なんといってもすばらしい。
- ◎ 「風の丘」のために所有地を寄託した津崎能子さん（2007 年に他界）は、先立ったご主人ともども世話好きで、近所の子供たちもしょっちゅう遊びに訪れる町内では評判のご夫婦だったそう。そんな地域のために尽くしてきた恩人が私財を投じてまで、「この地で信頼できる人たちと暮らし続けたい」と願った思いを NPO のメンバーもしっかりと受け止め、共鳴する住民の輪を広げていった結果、莫大な建設費も調達できたのではないかと思われる。
- ◎ ケア付ハウスは“わが家”の目と鼻の先にあり、住み慣れた地の景色を眺めつつ、昔なじみの知り合いと一緒に暮らせる安心感は、ここならではのもの。入居者は自宅を手放すことなく、昼間に郵便受けや家財道具を確認したり、ちょっとした用を足すために容易に帰ることができる。持ち込む荷物も最小限のものがあれば足りるという。

【事例 8】公営団地に集住する外国籍居住者らの支援

《居住支援の概要・経緯》

境川を挟んで横浜市泉区と大和市にまたがって林立する県営いちはう団地は、かつて大和市内にインドシナ難民の救済を目的とした「定住促進センター」が設置されていた（1980年～1998年）経緯もあって外国籍の入居者が増え、高い比率を占めるようになった。そうした中には日本語の書面や生活上の手続きなどに不慣れな人も多いことから、十数年前から団地に密着して総合的な支援の手を差し伸べているボランティア団体が「多文化まちづくり工房」だ。

代表の早川秀樹さんが、知り合いの依頼に応じて横浜市泉区において日本語教室をスタートさせたのは1994年の秋。そもそも市営上飯田団地の外国籍居住者を対象とした教室だったが、開いてみるとやってくる多くは県営団地の住民であることを知り、3年後に足場を移すことにした。さらに大人の教室を続けていくうちに、子供のコミュニケーションや学力の問題が深刻であることに気付く。

こうした子たちのサポートを通じて、横浜市立いちはう小学校をはじめとする関係機関との連携協力を進めつつ、2000年1月、多文化まちづくり工房を設立。10月には、いちはう小学校正門前の店舗内に事務所を構え、本格的な取り組みが始まった。大人の日本語教室に加え、子供のための学習支援や進学ガイダンス、居場所づくり、異文化交流、さらには団地暮らしや生活全般にかかる相談・通訳・翻訳なども手がけるようになる。近年は、古くから暮らす日本人世帯が高齢化するにつれて、比較的若い世代で構成される外国籍・外国につながりのある住民が団地の自治やコミュニティづくりを背負って立つ存在になってきていることを踏まえつつ、意識啓発や人材の育成にも力を入れている。

掲示板等の多言語表記が国際色
豊かな住民層を思わせる



居住環境の概要

◆ 位 置 小田急線・高座渋谷駅～徒歩15分、または相鉄線・いずみ野駅、JR戸塚駅よりバス

◆ 規 模 等 いちはう上飯田団地（横浜市泉区）／48棟、17.6ha
いちはう下和田団地（大和市）／31棟、9.4ha

◆ 外国籍の居住者の状況

団地住民全体に占める割合は、世帯比にして約2割、人口比にして約3割。さらに数字には表れない外国につながる日本国籍の子供たちがいる。

〔出身国〕

いちはう上飯田団地（横浜市泉区）／
大半がベトナム人と中国人、カンボジア人
いちはう下和田団地（大和市）／
十数カ国の外国人が同程度の割合で居住

《ボランティア団体の主な取り組み》

【日本語教室】（2009年度より文化庁委託事業）

- 夜の日本語教室：水・土曜 18:30～20:40。初級を中心としたクラス形式とマンツーマン形式を併用。参加者は50～60人。大学・高校生、社会人、主婦、地域で育った外国籍の若者など20～30人がボランティア講師としてかかわっている。
- 地域で学ぶ日本語教室：火・金曜 9:30～12:00。2009年からスタート。グループ形式で学習を行い、母語のできる若者が講師を務める。参加者は10～15人。

【補習教室】

- 放課後学習教室：火・金曜 16:00～17:30。いちはう小学校と協働で行っている補習教室。対象は小学5・6年生だが、外国籍に限定せず日本人の子供も数多く参加している。月に一度は、横浜市泉図書館の協力を得て読み聞かせや常識クイズを実施。
- 夏休み学習教室：いちはう小学校主催の補習（夏休みの初めと終わり3日ずつ程度）にサポートとしてボランティアが参加。子供たちの現状の把握に役立てている。
- 中学生学習補習：火・金曜 18:30～21:00。まちづくり工房事務所にて実施。参加者は10名前後。大学・高校生にボランティアにかかわってもらい、若い世代のつながりを育む場にもなっている。
- 高校進学ガイダンス：毎年9月後半に実施。NGOの「多文化共生教育ネットワークかながわ（ME-net）」の協力を得て、中学生と保護者を対象に進学情報等を提供。

県営いちょう団地(横浜市泉区・大和市)



夜の日本語教室の開催風景



▲「あいさつロード」プロジェクトの壁画



▼防災訓練に携わる「TRYangels」

【まちづくり】

- 多文化レスキュース 「TRYangels」：4、5 年前から泉消防署と協働で、外国につながる若者らに呼びかけて防災リーダーを育てる取り組みを進め、さらに活動のすそ野を広げていく狙いから、2010 年 8 月、日本人も交えてチームを結成。地域防災訓練やイベントにおいて、若い世代が中心となって多言語による心肺蘇生法&AED の講習などを展開している。
- 「あいさつロード」プロジェクト：2010 年度、横浜市文化芸術財団の助成を受け、団地住民の多様性を子供たちにアートで表現してもらった。上飯田団地中央道路に面したいちはよう小学校の壁面には、日本、中国、カンボジア、ベトナムのそれぞれを象徴する絵といさつの言葉が描かれている。

《ここがポイント！》

- ◎ 外国人のための日本語教室や生活相談に取り組むボランティアグループは数多いが、団地に張り付いて固有の問題を洗い出し、個人のみならず共生のコミュニティづくりをサポートする「多文化まちづくり工房」のスタイルは注目に値する。特に防災にかかる意識啓発や組織化の取り組みは目新しく、地域の一員としての自覚を促すうえで有効な方策であると思われる。
- ◎ 現在、「多文化まちづくり工房」と連携協力している関係機関は横浜市のエリアが中心。大和市エリアにおける学校や自治会とも連携を広げていくことが、今後の活動の課題という。

【生活相談】

- 入居サポート相談事業：月・水・金曜 13:00～18:00。神奈川県との協働事業として実施。県営住宅の暮らしで困ったことや各種手続きのサポートをはじめ、日常生活で生じたさまざまな悩みにも応対し、1 日 10 件程度の相談が寄せられているという。
- 学校・地域への通訳派遣：ベトナム語が通じるスタッフを常駐させるなどして、言葉の壁やトラブルが生じた際に迅速に対応できる体制を整えている。

【多言語情報発信】

- 情報誌の発行：医療・福祉・利便施設のリストや生活に必要な情報をベトナム語と中国語でまとめ、月 1 回、配布している。神奈川県との協働事業として実施。
- 新規入居外国人向け説明会：神奈川県との協働事業として実施。住まい方のルールを伝えたり、自治会と接点が持てるよう橋渡しをする。
- 応急救護マニュアル等の多言語化：地域防災訓練などで配布するため、横浜市泉消防署と協働で応急救護や防災マニュアルの多言語版を作成した。